

## 令和6年度第2回 倉敷市地域公共交通会議 議事概要

### 開催概要

開催日時	令和6年11月12日(火) 13時30分～15時30分
開催場所	倉敷市立美術館3階 第2会議室
出席者	委員(代理出席含む) 26名 橋本成仁委員、氏原岳人委員、西崎大修委員、山本明子委員、寺島正治委員、家守豊委員、沼本健一委員、石野正人委員、岡田和史委員、神宝博委員、高木秀治委員、平本清志委員、大林玲嗣委員、楠本雅之委員、池内丈史委員、(代)白井英二委員、古谷修司委員、(代)芝崎直人委員、平井啓之委員、吉田奈美委員、原弘好委員、(代)野田真人委員、(代)安慶名香代委員、戸川学委員、藤原貢委員、堀越信宏委員
	その他
	事務局7名、関係者1名
議事次第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 挨拶</li> <li>2 開会</li> <li>3 議事 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 協議事項 倉敷市地域公共交通計画の変更</li> <li>(2) 報告事項 <ol style="list-style-type: none"> <li>ア コロナ禍における公共交通の年間利用者数</li> <li>イ 利用促進に向けた取組</li> </ol> </li> <li>(3) その他</li> </ol> </li> <li>4 挨拶</li> <li>5 閉会</li> </ol>
配布資料	次第、配席図、委員名簿 資料1 倉敷市地域公共交通計画の変更 資料2 コロナ禍における公共交通の年間利用者数 資料3 利用促進に向けた取組 その他 倉敷市における持続可能な公共交通を目指す取り組み
協議事項	倉敷市地域公共交通計画の変更
	【事務局から説明】(資料1)
	(委員) 1-1ページについてですが、タクシー協会は、県全体に対して情報発信をしており、定例的なものがほとんどであるため、倉敷市内のみの公共交通の情報発信はしていない。どのように捉えればいいか。 (事務局) タクシー協会においては、県全体に対する情報発信でよい。 (委員) 1-2ページについて、メディアツールによる情報発信の回数や、スケジュール案とし

て四半期ごとにターゲット等を決めた情報発信の記載があるが、これ以外でも路線バスの利用促進に関わるものであれば発信してもいいのか。

また、発信した情報は、倉敷市の皆さんに、どこでどのように届くのか。また、情報発信の回数は、市にどう報告するのか。

(事務局)

資料にある情報発信の内容は、本市が行う案であり、これにとられる必要はない。各者それぞれ、年間4回以上発信してもらいたい。

また、発信した情報は、各交通事業者のホームページやSNSで市民に届くものと考えている。また、毎年の進捗管理の際に市へ報告してもらいたい。

(委員)

1-1ページについて、この情報発信によって、どういった効果が出てきたかということが、この定義の考え方であったと思うが、どのように考えるのか。公共交通の利用率のモニターアンケートは、実施しないということか。

(議長)

指標を公共交通の利用率に変更する代わりに、元々、年間利用者数の指標があるため、情報発信したことと、その効果については、別の指標として計画に位置づけているということである。

(委員)

1-2ページの目標8について、対象をイベントと啓発としているが、実際に現地に行って各事業者の情報を発信していくようなことも、カウントをすることはできないか。

(事務局)

目的が公共交通の利用促進に関する情報発信であれば、対象になる。

(議長)

1-7ページの「スマート通勤おかやま」について、この取組は一体どんなものなのか、誰がどう勧誘して増やしているのか。また、参加した企業や従業員のメリットについて教えてもらいたい。

(事務局)

「スマート通勤おかやま」は、岡山県、岡山市、岡山国道事務所、本市で組織する実行委員会が主催で実施しており、岡山の渋滞削減や、CO<sub>2</sub>削減、公共交通の通勤利用の促進に関する取組である。また、市内の従業員規模が10名以上の企業を対象に、郵送により募集している。

メリットについては、スマート通勤おかやまアワードという表彰制度を導入しており、岡山市長や倉敷市長により表彰される可能性がある。また、取組への参加を、環境配慮や地域貢献活動としてアピールすることができる。

(委員)

「スマート通勤おかやま」は、対象企業を増やしたいので、今年度から対象を従業員10名以上の企業に拡大しており、昨年度に比べ、かなり多くの企業を対象に募集している。

(委員)

「スマート通勤おかやま」は、岡山運輸支局も参加しているが、この取組を知らない人

	<p>が結構いると思うため、何かいい周知方法があればと思っている。</p> <p>(議長)</p> <p>「スマート通勤おかやま」は、商工会議所がメンバーに入っているの、企業に声かけしてもらい、チラシを回してもらおうなど、企業に対する情報提供も必要と思われる。</p> <p>(委員)</p> <p>情報発信の指標について、共有について、各者が単発で実施しているのもあり、それぞれがホームページでバナーを貼り合うことなどが有効と考えられる。また、自治体が主催しているイベントの情報発信の中に、公共交通の情報を入れることが効果的ではないか。</p> <p><b>【議決】 賛成多数により原案承認</b></p>
<p><b>報告事項</b></p>	<p><b>ア コロナ禍における公共交通の年間利用者数、イ 利用促進に向けた取組</b></p> <p><b>【事務局から説明】 (資料 2、3)</b></p> <p>(委員)</p> <p>2-1 ページのコミュニティタクシーについて、この資料の意図するところと分析結果はどのようなものか。</p> <p>(事務局)</p> <p>意図としては、コロナ禍が終わり、利用状況の推移をモード別に見た時に分かることである。</p> <p>分析結果として、まず、ある利用者が多い地区で、タクシー事業者からの運行経費を上げてほしいとの申し出により、地域負担や料金が上がった。それにより、運賃が大幅に値上げとなるため、今まで定時定路線であったものをデマンドに変えたということがある。</p> <p>また、災害があった真備地区で、今まで 1 万人いた利用者が、まだ 7,000 人ぐらいまでしか戻っていない。</p> <p>コロナ禍後の利用者が回復していないことについては、これらが大きな要因と考えられる。</p> <p>(委員)</p> <p>コミュニティタクシーの利用者が回復していないことについて、事務局より、利用者負担が増えたという話があった。また、値上げが原因ということであったが、そうであれば、住民の移動手段の確保について、何か考えていく必要があると思う。</p> <p>(議長)</p> <p>コミュニティタクシーを今後どうするのかについては、十分に分析して皆さんに議論してもらい必要があるのではないかと。制度自体が大丈夫なのか、あるいは地域による特性で現在の利用状況となっているのか、事務局で分析すること。</p> <p>(事務局)</p> <p>コミュニティタクシー事業において、赤字部分の 1 割を地元が負担することについては、費用負担が増えることにより、危機感を感じてもらい、もっともっと乗ろうという声掛けをしてもらうための仕組みである。</p> <p>当時は一定の機能を果たしていたが、今後は、各地域の方などに色々相談しながら、それぞれの地域にあった利用促進や、改善する部分などを抽出し、より良いものにしたいと考えている。</p>

	<p>(委員) 人口減少と高齢化で、コミュニティタクシーは、今の形でいつまで続くか分からないと思う。市の将来を考えるのであれば、地域に任せるだけではなく、市としてバス路線のない地域への対応について、この会議で協議してもらいたい。</p> <p>(委員) 警察は免許証の返納を推進している中、先般、タクシーで愛カードが使えなくなるという話があった。このように逆行している部分について、対策を検討してもらいたい。</p> <p>(委員) 3-1ページの「スマート通勤おかやま」について、例えばスマートモビリティなどの名前にして、個人を対象に、何かポイントがつくようなものが考えられないか。</p> <p>(議長) 健康などの視点から、公共交通の部署ではないかもしれないが、考えてもらってもいいかも知れない。</p> <p>(委員) 3-2ページについて、10月19日に「路線バス・臨鉄無料デー」が実施されていたが、10月20日に実施された「ふれあいフェスティバル」で、市民から、今年は無料バスがないのかという問い合わせがあった。去年は無料バスが運行されていた。今年の実施日について、市で調整してもらえていれば、利用者にとって良かったのではないか。</p> <p>(事務局) 「路線バス・臨鉄無料デー」の実施日について、市内のたくさんの方に利用していただくために、様々なイベントに合わせるように調整したが、すべてのイベントには合わせられなかった。</p>
<p>その他</p>	<p><b>倉敷市における持続可能な公共交通を目指す取り組み</b></p> <p><b>【両備ホールディングスから説明】</b></p> <p>(議長) 資料の中に、非常に大事な提案や、本来、公共交通計画の中に入っていなければいけないものがたくさんあると思うが、事務局から何かあるか。</p> <p>(事務局) 今年度から両備バス、下電バスと連絡協議会を始めている。この連絡協議会の中で、市の建設局や、観光、移住定住などに関連する取組について、市としてできるものは進めていきたい。</p> <p>(議長) 4つの課題の中で、環境に関する部分は、行政なしでは実現しにくいと思われる。また、他の部分についても、行政が間を取り持てば、うまくいくのではないかという部分もあるので、ぜひ積極的に考えてもらいたい。</p> <p>(事務局) 事業者間の連携について、スケジュール感が具体的にある取組があれば教えてほしい。</p> <p>(委員) 実行フェーズに移行できるものは、早ければ来年度から実施したいと思っている。</p>

(委員)

時刻表や乗り放題チケットなどの連携については、早めの実現できるかと思う。システムなどの開発には時間がかかると思う。

(委員)

事業者間の連携について、観光サイドにとっては、駅前案内所での案内がスムーズになるかと思う。また、倉敷駅のバスについて、乗り場が2つに分かれているが、共有することは本当に可能なのか。また、共通で使えるチケットについて、すでに電子マネーなどでは共有できているから実現性は高いのか。

(委員)

乗り場については、運用上、問題ないかを検証する余地がある。便数や時刻表の調整も必要と思っている。乗り場を一緒にしても、同じ時間に2台出ていくのでは意味がないので、共同経営のように話が大きくなると思うが、一緒にするのが理想だと思う。

乗り放題については、ハレカやICOCAなどのICカードが使ってもらえるようになっている。もう一步踏み込んで、1枚買えば1日定額で乗れる乗り放題という形ができればと思っている。デジタルチケットは、いろんな媒体で提供されているので、検討していきたい。

(委員)

JRでは、tabiwaなどでデジタルチケットの販売を実施しており、それと連携できれば宣伝効果もあるし、PRもしてもらえと思う。倉敷から児島への移動という課題もあるため、ぜひ実現してもらいたいと思った。